

# 資料No.5

江田島市公共交通協議会  
令和元年6月12日

## 地域公共交通網形成計画の評価指標の中間検証について

### 1 目的

江田島市地域公共交通網形成計画第7章（P. 39）において、「江田島市の地域公共交通を持続的に発展させるため、江田島市公共交通協議会において、継続的に「PDC-Aサイクル」による評価・検証を行います。」と明記しています。

計画3年目となる平成30年度においても、計画事業の評価及び検証を行うことにより、次年度以降の計画事業の実施の方向性を位置づけ、計画事業の効果的・効率的な実施を図ることを目的とします。

### 2 計画の取組状況

別紙1を参照

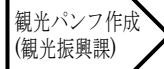
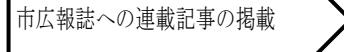
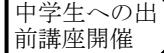
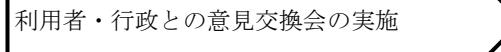
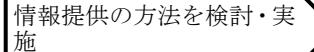
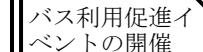
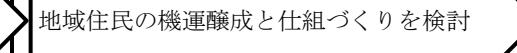
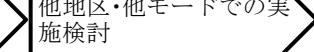
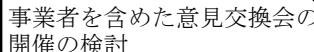
### 3 評価指標の達成状況

別紙2により、各評価指標の達成状況と、その理由（原因）について考えられるものを記載しています。

(別紙1) 江田島市地域公共交通網形成計画の取組状況

計画の目標	事業	取組事業	取組状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
目標1 最適な公共交通ネットワークの構築	①海上交通と陸上交通の連携強化	1 江田島市公共交通協議会での協議、連携強化 2 ダイヤ改正時における相互調整や乗継案内の実施など 3 公共交通の利用促進イベント等の共同実施	おれんじ号協議 覚書締結	おれんじ号ダイヤ改正 覚書運用開始	おれんじ号ダイヤ改正	バス・船を含めた連携強化に向けた協議の実施	
	②路線バス(幹線・支線)系統やダイヤの見直し	1 利用者等のニーズを踏まえた効果的・効率的な系統やダイヤへの見直し	ダイヤ改正検討	バスダイヤ改正	効果的・効率的な系統やダイヤを検討実施		
	③おれんじ号の利便性向上	1 利用者等のニーズを踏まえた効果的・効率的な系統やダイヤへの見直し 2 利用者にとって利便性の高い乗降場所の検討	ダイヤ改正検討 検討	おれんじ号ダイヤ改正 林山上への乗入開始	おれんじ号ダイヤ改正	検討・実施・適宜見直し 地域住民や事業者の意見を参考に検討	
目標2 交通結節点における機能の向上	①乗換環境の充実	1 船舶、車両などにおける乗継情報の提供 2 運行状況に関する事業者間の相互連絡体制の構築 3 バス中継ターミナルの動線の改善、上屋等の設置 4 情報提供設備の整備	公共交通マップ作成 覚書締結 検討・整備	デジタルサイネージ運用開始 覚書運用開始 ターミナル機能強化の検討 バスロケ・サイネージ運用開始		営業所機能をゆめタウン周辺に移転予定	

計画の目標	事 業	取 組 事 業	取 組 状 況				
			28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度
<b>目標3 利用環境の改善 による利便性等 の向上</b>	①運賃負担感の軽減策 の検討	1 路線バスにおける上限運賃制度  2 航路、路線バス、おれんじ号の相互間利用 における乗継割引制度  3 商業施設等との連携した乗車券サービス 制度	検討			適宜見直し	
	② I C カードの導入	1 PASPY 導入の検討	検討、事業者協議	通学定期代補助制度（学割バス）の実施		検討・適宜見直し	
	③バリアフリー化の推進	1 船舶や車両、交通結節点などのバリアフリ ー化の推進	おれんじ号車 両更新(2台)	バス車両更 新(2台)	船舶や車両の更新の際に、バリアフリー化を推進 交通結節点などについては、今後検討		
	④分かりやすい公共交通情報の提供	1 バス停や待合所での情報提供内容等の充 実  2 携帯端末への情報の提供  3 わかりにくいバス停の名称変更  4 公共交通マップの作成	検討・整備	バスロケ・サイネージ運用開始			
<b>目標4 観光の強化によ る利用者の増加</b>	①公共交通を活用した 観光ルートの開発	1 航路と路線バスを活用した観光ルートの 開発		航路と路線バスを活用した 観光ルートを市 HP に掲載		観光商品の情報発信力強化 等、交通事業者との連携実施	

計画の目標	事 業	取 組 事 業	取 組 状 況				
			28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度
	②観光客に向けた情報発信力の強化	1 インターネットを活用した情報発信力の強化 2 観光情報等の多言語化 3 ラッピング車両等の導入					
<b>目標5</b> 地域で公共交通を支えるための意識の醸成	①公共交通の利用促進と地域との意見交換会の開催	1 公共交通の現状や課題に関する情報提供 2 各種行事や広報などを活用した公共交通の利用促進 3 地域で公共交通を支えていくための仕組みづくりの検討 4 利用者と交通事業者、行政などの関係者による意見交換会の開催		  	  		

(別紙2) 評価指標の達成状況

目標	評価指標	計画策定時の 現状値(H27)	現状値(H30)	目標値(H32)	成果と今後の課題
目標1 最適な公共交通ネットワークの構築	航路利用者の前年比減少率	▲4.2%(H26)	1.6%	▲3.5%以下	目標値は達成したものの、7月豪雨災害の影響と推測される。評価指標の達成に向けて、引き続き計画を推進する。
	路線バスの年間利用者数	70万人(H26)	47万人	70万人以上	前年度から増減なし。人口減少が続く中で、いかに利用者を獲得するかが課題。
	おれんじ号運行見直し基準(稼働率)の目標を達成した系統の割合	50%(H26) (2系統/4系統)	50% (2系統/4系統)	75%以上 (3系統/4系統)	前年度と同じ割合。人口減少等に伴い利用者数も減少する中で、いかに新規利用者を獲得するかが課題。
目標2 交通結節点における機能の向上	乗換改善策の実施件数	—	1件	2件	市内航路事業者及び江田島バスと、乗継改善に向けた取組に関する覚書を締結した(H28)。今後はいかに各事業者において、乗換円滑化に向けたダイヤ設定をしていくかが課題。
目標3 利用環境の改善による利便性等の向上	負担感軽減策の実施件数	—	1件	2件	通学定期代補助制度の創設(H29)。今年度は、交通系ICカード導入を予定している。
	バリアフリー車両の導入率	53.3% (8台/15台)	66.6% (10台/15台)	80.0%以上 (12台/15台)	江田島バスが車両2台を低床車両へ更新した(H29)。なお、評価指標の数値はバス車両のみだが、おれんじ号車両についても、2台をバリアフリー車両へ更新している。
	情報提供資機材の整備件数	—	2件	2件	公共交通マップの作成及びバスロケーションシステム等の導入を実施。目標値に達したが、今後も必要に応じて検討を行う。
目標4 観光の強化による利用者の増加	年間総観光客数	54万人(H26)	63万人	70万人	公共交通マップ及びバスロケーションシステム等を作成・導入した。公共交通機関を利用した観光ルートを市HPに掲載した(H29)。これらの仕掛けを利用者増につなげられるかが課題。
目標5 地域で公共交通を支えるための意識の醸成	意見交換会の開催件数	年間2回	延べ8回	延べ10回以上	主におれんじ号のダイヤ改正に伴う出前講座を開催した。船やバスも含めた、気軽に意見を交換できる場の設定が課題。
	地域が主体となった取組の件数	—	1件	2件	バス利用促進イベントを開催。他地区での開催を予定する。

